



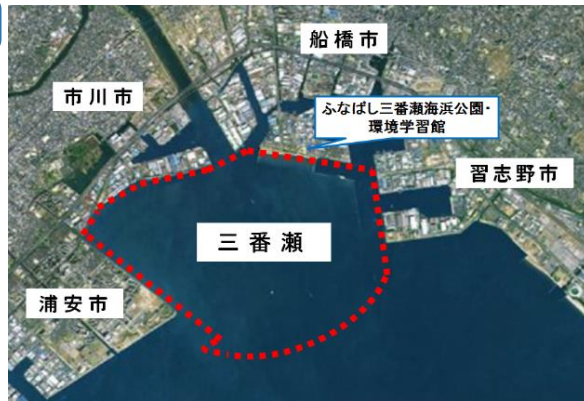
知ろう！ 守ろう！

さんばんぜ
三番瀬



三番瀬はどこにある？

三番瀬は、東京湾の最も奥に広がる干潟・浅瀬です。「干潟」とは、干潮になると出現する砂や泥でできた場所です。また、「浅瀬」とは、干潟に続く浅い海域（水深0~5m）で、いつも海水に覆われています。船橋市・浦安市・市川市・習志野市に広がる三番瀬は、約1,800ha（船橋市面積の約1/5）の広さを有しています。その三番瀬の中でも、船橋市の「ふなばし三番瀬」は潮干狩りもできる自然豊かな遠浅の砂浜です。



▲三番瀬の位置



千葉ブランド水産物認定ホンビノスガイ



▲海浜公園から見える富士山と三番瀬

また、三番瀬には長い歴史があり、江戸時代には御菜浦（おさいのうら）と呼ばれ、徳川幕府に多くの魚介類を献上してきた優れた漁場として知られています。戦後の高度経済成長の中で埋め立てられたところもありますが、現在でも海苔の養殖や千葉ブランド水産物に認定されているホンビノスガイなどの採貝漁業が盛んに行われています。さらに、天気の良い日には美しい富士山を見ることができます。私たち船橋市民にとって地元の海、かけがえのない三番瀬に出かけてみましょう。

生物多様性って何だろう？

三番瀬の環境について考えるポイントの一つに、「生物多様性」があります。「生物多様性」とは、生きものの豊かな個性とつながりのことを指します。地球に住む生きものは様々な環境に適応して生き残ってきました。そして長い年月をかけて、お互いにつながりあい、支えあって生きています。

三番瀬では、こうした生きもののつながりが観察できます。ふなばし三番瀬海浜公園内にあるふなばし三番瀬環境学習館では、三番瀬の生きものにふれるイベントなども開催しているので、参加してみましょう。また、生物多様性のためにできる行動について、みんなで考えてみましょう。

私たちは食べ物など日々、様々な生きものの恵みを受けています。生物多様性を守り、自然の豊かな恵みも守りましょう。

「私たちにできる行動」

- ふれよう** 市内には水辺や森などの自然があります。いろいろな人といろいろな季節に出かけて自然や生きものにふれあってみましょう。
- たべよう** 地元食材を食べることは、船橋の農水産業が盛んになり、農地などの自然を守ることに繋がります。守られた自然は、生きものにとって大切なすみかになります。
- えらぼう** 生きもののことを考えて作られたエコマーク付き商品などを探して選ぶことは、自然を守ることに繋がります。
- まもろう** 生きものを育む自然を守るために、何をすべきか考えてみましょう。清掃活動など生きものを守る活動を調べ、参加してみましょう。
- つたえよう** 環境イベントへの参加や生きものとのふれあいで感じたことを家族や友達に伝え、自然を守ることの大切さを共有しましょう。

干潟と生きものの働きを見てみよう

生きものは「食べる-食べられる」の関係、つまり「食物連鎖」で深いつながりを持って生きています。なかでも三番瀬のような干潟には、潮の満ち引きや河川の働きにより、陸と海から栄養が定期的に届きます。その豊富な栄養を求め、下の写真のようにたくさんの生きものが集まります。また、水深が浅いため大型の魚が入って来づらく、海藻などに身を隠すこともできるため、稚魚の生育の場として命のゆりかごの働きをしています。

さらに、アサリなどの貝類は有機物などによる海の濁りを栄養として食べて、海をきれいにします。干潟の生きものの働きで、三番瀬の水質は保たれています。私たちが干潟の生きものとその働きを知ることは、生きものが住みやすい環境を守ることに繋がります。



三番瀬で見られる生きもの



▲アサリ
2本の管から海水を出し入れする。海をきれいにするよ。



▲スズキの稚魚
春先によく見られる。三番瀬で大きく育った後、東京湾へ旅立つよ。



▲ミヤコドリ
赤いくちばしが特徴的。アサリなど二枚貝をこじ開け食べるよ。



▲タイゼン
三番瀬で一年中見られる。夏と冬で羽の色が違うよ。

海と生きものをマイクロプラスチックから守ろう

いま世界では、海洋プラスチックごみが問題となっています。プラスチックは、今では私たちの生活に欠かせない材料となりました。しかし、ビニール袋などのプラスチック製品は、軽いので散らばりやすく、ポイ捨てされたり、ごみ収集ステーションでカラスなどに荒らされ風に飛ばされたりすると、やがて川や海に流れ出てしまいます。プラスチックは自然界で分解されにくく、海に流れ込むと、風や雨、紫外線の影響を受けてもろくなり、やがて割れたりして小さくなり、マイクロプラスチック（大きさは5mm以下）となります。マイクロプラスチックは、海を漂う化学物質を吸着しやすく、海の生きものがエサと間違えてこれを食べてしまうと、有害物質が生きものの体内に蓄積されてしまうかもしれません。

三番瀬の砂浜でも、写真のように多くのごみが見つかる場合があります。また、マイクロプラスチックも発見されています。

私たちの海、三番瀬を守るためにポイ捨てをしないのはもちろん、マイバッグを持ち歩き不要なレジ袋をもらわない、ペットボトルはきちんと分別して捨てる、使い捨てプラスチック製品を買わないなど、身近なことから行動してみましょう。

また、現在船橋市と日本大学生産工学部（*）は、連携してマイクロプラスチックの漂流・漂着の実態調査を進めており、今後私たちが暮らしの中で実行できる取組を研究しています。



プラスチックはとても便利なものですが、世界では年間約800万トンものプラスチックごみが海に流出し、2050年には、魚の重量を上回るといわれています。また、死亡したウミガメの腹部からプラスチック製品が見つかる事例も報告されています。



▲三番瀬の砂浜のごみ



▲三番瀬の砂浜で見つかったマイクロプラスチック
(日本大学生産工学部提供)

(*）船橋市と日本大学生産工学部は、令和2年9月1日に「環境に関する連携協定」を締結しました。

私たちの海、三番瀬を守るためにも、次のような行動を心掛けましょう！



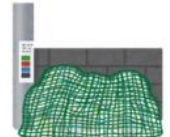
マイバッグを持ち歩き
レジ袋をもらわない



使用済みの製品を
再生して資源にしよう



ポイ捨てをしないほか、
清掃活動へ参加しよう



家庭ごみの収集日を守り、
ルールを守ってゴミ出しをしよう

ふなばし三番瀬クリーンアップとSDGs

ふなばし三番瀬クリーンアップは、2001（平成13）年から始まった、三番瀬の秋の自然にふれながら浜辺の清掃活動を行うイベントです。船橋の自然を代表する三番瀬の清掃活動や自然観察を通じ、三番瀬に対する理解と関心を深め、三番瀬の保全を図るために開催しています。清掃活動後には、貝がらを使った工作会や、豊かな自然にふれる生きものの観察会なども開かれています。

こうした活動は、三番瀬の自然環境だけではなく、地球全体の環境保全にもつながっています。

国際的な環境保全の動きとしては、2015（平成27）年に「SDGs（エスディーゼズ）」、いわゆる「持続可能な開発目標」が国連で採択されました。SDGsとは、人間の活動が原因で生じる地球規模の様々な問題の解決に向けて、17の目標を定めて世界中の国とともに取り組んでいく目標です。この目標は、環境だけではなく、経済、社会のそれぞれの分野から成り立っており、左下に示したように環境分野には4つの主な目標があります。これらはSDGsにおいて重要な土台部分として考えられることもあり、この土台部分の一つに「14 海の豊かさを守ろう」があります。



▲環境分野の主なSDGs

ふなばし三番瀬クリーンアップの様子



▲砂浜清掃の様子



▲貝がらを使った工作会

ふなばし三番瀬クリーンアップをはじめとした活動は、こうした世界規模の取組みにも貢献しています。三番瀬のあるべき姿を次の世代に引き継いでいくために、地球環境にも目を向け、イベントに参加してみませんか。

（おわりに）

このリーフレットは、三番瀬がどこにあり、そこでどんな生きものたちがつながり現在の姿が保たれているか、またそのつながりを取り巻く環境を脅かす世界的な環境問題に対して、私たちに何ができるかをお伝えするために、作成しました。

三番瀬には、このリーフレットだけでは伝わらないたくさんの魅力があります。実際に三番瀬に行って、季節ごとに移り変わる様々な自然にふれてみましょう。

発行 ふなばし三番瀬クリーンアップ実行委員会

協力 ふなばし三番瀬環境学習館

（令和3年2月）

編集 事務局（船橋市環境部環境政策課）

住所 船橋市湊町2-10-25

電話 047-436-2450